

編集後記

『事業承継』第5号が完成しました。今回も様々な角度から事業承継にアプローチする、非常にユニークな論考が並びました。

早いもので、本学会は2010年春の開設から丸6年が経過し、本誌も今号におきまして節目の第5号を数えることになりました。思えば、この6年間、事業承継というテーマへの社会的・政策的・学術的関心はいっそうの高まりをみせてきました。今日、マスメディアもインターネットもこのテーマに関する情報が溢れています。また、大学にあっても事業承継の当事者を対象とした教育プログラムを提供するところが増えていきます。こうした時流にあって、国内唯一の、事業承継問題に専門特化した学会組織である本学会が果たすべき社会的役割はますます大きなものになってきていると感じています。

その果たすべき役割は日本国内に限ったことではありません。近年、海外では日本企業、特に老舗企業の事業承継に関わる考え方やノウハウに対する関心が高まっており、海外から経営者のグ

ループが京都や東京をはじめ各地の老舗企業を訪れて見学や意見交換を行なうという内容の研修ツアーが人気を集めるようになってきていると聞きます。こうした海外からの“引き”を考えますと、今回の林廣茂 本学会代表理事の特別寄稿論文のように、英語で情報発信することの重要性が今後ますます高まることになると思います。

この編集後記を執筆するタイミングにおきまして熊本地震が発生しました。奇しくも今号では、2011年東日本大震災の折に被災した企業のCSR活動と事業承継の関係性を問う矢口義教氏の論考が掲載されており、そこで示された東北の経験が今回の被災地の企業に対しても何かしら有益なりファレンスとなるのではないかと期待しています。

最後になりましたが、第5号の編集過程におきましても前号につづき株式会社あおぞら印刷の立木哲生さんに大変お世話になりました。ここに記して謝意を表します。

『事業承継 Vol.5』編集委員

横澤利昌（委員長）

河口充勇